

正しょうを修おさめる ― 修しゅう正じょう会え 三さん宝ほう鎮ちん守じゆに正しょう道どうを誓ちかう ―

(四版)

人ひとは正ただしく生しょう死じせん

規き則そくルールをまもりなん

守まもるこころはいづこ何い処こから

育はぐくみう受おもけしおも思もいから

護まもりかんをじや感じやじや謝じやすまもゆえに

仏ほとけのみちび導びき

神かみがみ々まものまも護もり

小ちいさこきこう孝かはかえ借かりかえ返かえす

恩おん返がえし

当あたまえりま前えのことなれど

大おおきこなこう孝かはかえ返かえせとは

言いわこころぬむく心むくにむく報むくいむくてむく行むくず

報ほう恩おんのこう孝こう行こう

天てん地ち自し然ぜんのめぐ恵めぐみう受うけ

八やお百よろ万ろのか神が々み

中うちよしょうりし生しょうずはんるはん般はん若にのや火ひ

般はん若に波は羅ら蜜みつ

大だい孝こう悟さとらほとけんこ仏ほとけのこ子こ

孝こうをな名な付づけかいてかい戒かいとなす

法ほうをまな学まなびのりてた則たをた建たつ

極ごく信しん心じんをかく覺かくす

尽つきぼんせのぬう煩い悩まし惱まし戒めめん

白びやく善ぜんをし修しゅう習じゅうす

宮城みやぎ県けん大崎おほさき市し 瑞川みづがわ寺てら住職ぢゆうしやく 木村謙文きむらけんぶん